授業科目名： 幼児と健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 金子勝司、栗田昇平 担当形態：オムニバス

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・健康

授業のテーマ及び到達目標

子どもの身体機能や運動能力、基本的な生活習慣の形成、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割ついて考え、保育を実践する力を身に付ける。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針では、引き続き「生きる力の育成」をスローガンに掲げている。本授業では、生きる力の基礎を培うために、子どもたちの心と体の健康をどのように援助していくことが保育者にとって必要であるかについて学ぶ。

授業計画

第１回：保育内容『健康』とは（科目概要・到達目標・評価方法について）　（担当：金子）
第２回：保育領域（健康）とは・子どもの健康とは・健康の定義・大人の健康との違い　（担当：金子）
第３回：子どもの身体・運動発達と健康　（担当：金子）
第４回：発達段階における運動指導の在り方　（担当：金子）
第５回：子どもの遊びの特性に配慮した園庭・遊具の構成　（担当：金子）
第６回：子どもの体力づくり　（担当：金子）
第７回：運動意欲を育む指導（進んで戸外で遊ぶためには）　（担当：金子）
第８回：乳幼児期の病気・怪我の特徴、応急処置の基礎と安全管理　（担当：栗田）
第９回：３歳児のこどもの健康　（担当：栗田）
第１０回：４歳児のこどもの健康　（担当：栗田）
第１１回：５歳児のこどもの健康　（担当：栗田）
第１２回：サーキットあそび①（固定遊具を使った遊び）　（担当：栗田）
第１３回：サーキットあそび②（大型遊具を使った遊び）　（担当：栗田）
第１４回：ふれあい遊び①課題研究（園内遊び）　（担当：栗田）
第１５回：ふれあい遊び②課題研究（自然遊び）　（担当：栗田）
定期試験

テキスト

河邉貴子・柴崎正行・杉原隆『保育内容「健康」』ミネルヴァ書房（令和2年）

参考書・参考資料等

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（平成30年）
・厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館（平成30年）
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示　内閣府）

学生に対する評価

授業内で実施する理解確認課題（40％）・試験（60％）により評価する

授業科目名： 幼児と人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：今堀美樹 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・人間関係		

授業のテーマ及び到達目標

(1)幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景について理解する。

(2)幼児が発達する過程について、発達心理学の知見から理解を深める。

(3)他者との関係や集団との関係の中で、幼児の人と関わる力が育まれることを理解する。

授業の概要

幼児が発達する過程について発達心理学の知見から理解を深め、幼児が多様な人間関係を経験することによって発達するという視点を身につける。その上で、幼稚園教育要領に示される「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」について、それらがどのような人間関係の中で育まれていくのかを、具体的に捉える力を養う。

授業計画

第１回：現代社会と幼児の人間関係（1）　―現代社会における家庭のありようと幼児の発達
第２回：現代社会と幼児の人間関係（2）　―親子関係における多様な課題と幼児の発達
第３回：現代社会と幼児の人間関係（3）　―地域社会における多様な生活課題と幼児の発達
第４回：人間関係によって育まれる発達（1）　―親子関係
第５回：人間関係によって育まれる発達（2）　―家族関係
第６回：人間関係によって育まれる発達（3）　―地域社会との関係
第７回：人間関係によって育まれる発達（4）　―保育者との関係
第８回：人間関係によって育まれる発達（5）　―友達との関係
第９回：人間関係によって育まれる発達（6）　―同年齢集団との関係
第１０回：乳幼児期における自立心　―「イヤ」「ジブンデ」という主張
第１１回：幼児期の協同性の育ち　―同じ目標に向かう楽しさ
第１２回：幼児期の道徳性・規範意識　―他者との葛藤体験に耐える力
第１３回：幼児期の道徳性・規範意識　―他者との関係における自己主張
第１４回：乳幼児期における人間関係のひろがり
第１５回：乳幼児期に育みたい人間関係と生きる力
定期試験

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（平成30年）

参考書・参考資料等

『保育所保育指針解説書』（平成30年2月告示　厚生労働省）

学生に対する評価

各回の演習シート：30%、発表：30%、試験：40%

授業科目名： 幼児と環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：松本直子 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・環境		

授業のテーマ及び到達目標

・領域「環境」の指導の前提に関する「幼児を取り巻く環境」「幼児と環境とのかかわり」についての専門的事項についての感性・知識・理解・技能について学ぶ。

・幼児が生活や遊びを通しての育ちの姿を捉え、保育者が配慮すべき事項を理解することができる。

・総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を身に付けることができる。

・幼児の発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境構成や教材・遊具等の活用と工夫の実際について理解することができる。

授業の概要

領域「環境」を基本として、実際の保育の場でのエピソードや映像などを通して理解を深めたり、指導の在り方を学んだりする。また、実際の保育の場で活用できる教材の制作や体験活動を行い、実践力を身に付ける。

授業計画

第１回：環境とは何かを考える

第２回：幼児の生活と身の回りの「環境」

第３回：園生活と保育環境を考える

第４回：子どもにとっての自然環境

第５回：子どもにとっての社会や文化に関する環境

第６回：子どもの発達と環境

第７回：子どもの興味・関心・好奇心・探究心

第８回：子どもの認知・理解、問題解決的・創造的思考力

第９回：子どもと生き物のかかわり（命の尊さ）

第１０回：子どもと動植物のかかわり（飼育・栽培）

第１１回：子どもと物のかかわり（物の性質の理解、試行錯誤・工夫）

第１２回：子どもと数量・図形、標識、文字とのかかわり

第１３回：子どもと様々な自然・自然現象とのかかわり

第１４回：現在社会とＥＳＤの視点から幼児期の環境

第１５回：授業全体を通してのまとめとディスカッション

テキスト 駒井 美智子、横山 文樹『保育内容「環境」：事例と演習でよくわかる』中央法規出版（令和3年）
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月告示　文部科学省） 『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 2 月告示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示　内閣府）
学生に対する評価 ・平常点20%　(受講態度、授業内レポート) ・課題発表80%　（小テスト、指導計画、レポート、作品等） 　具体的な方法・基準等については、授業内で担当者より説明する。

授業科目名： 幼児と言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：蛯谷みさ 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・言葉		

授業のテーマ及び到達目標

知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言葉の意義と役割について理解するとともに、多様な児童文化財の内容と保育上の価値について知る。幼児の言葉を豊かに育てるための教材や実践に関する知識を身に付ける。

・言葉の意義と役割及び乳幼児の言葉の発達過程の概要を理解し、説明することができる。
・児童文化財の特徴と意義について知り、工夫して活用することができる。
・幼児の言葉の感覚を豊かにする教材を選択し、作成できる。

授業の概要

社会における言葉の意義と機能、幼児の言葉への関心や言語表現の特徴、言葉の獲得と保育者の援助について学ぶ。また、言葉遊びの教材、児童文化財の基礎知識と意義について実際に活用しながら学ぶ。

授業計画

第１回：授業ガイダンス・言葉の役割について考え、乳幼児の言葉に関心をもつ。
第２回：社会における言葉の意義と役割について、幼児の言葉の獲得と関連付けながら理解する。
第３回：幼児の言語表現の特徴と言葉の発達過程
第４回：言葉に対する感覚を豊かにする実践～言葉遊び～体験の意義
第５回：言葉遊びのいろいろ（実演）
第６回：言葉に関する児童文化財の概要
第７回：想像する楽しさを味わう実践～物語を語る・昔話～
第８回：幼児の発達段階と絵本の選書
第９回：絵本の紹介
第１０回：想像する楽しさを味わう実践～絵本の分析と読み聞かせの知識と技能～
第１１回：絵本の読み聞かせの実践を通してその意義を理解する
第１２回：想像する楽しさを味わう実践～紙芝居の知識と技能～
第１３回：紙芝居の実践を通して意義を理解する
第１４回：領域「言葉」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について知る
第１５回：まとめと振り返り

テキスト

『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』文部科学省　フレーベル館

参考書・参考資料等 ・『保育所保育指針』（平成29年告示　厚生労働省） ・『保育所保育指針解説』（平成30年2月告示　厚生労働省） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月　内閣府）等 適宜、授業で連絡する。
学生に対する評価 　授業内演習及び提出物：50%　定期試験：50%

授業科目名： 図画工作実技（幼児と造形表現）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：佐藤賢司 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		

授業のテーマ及び到達目標

幼稚園教育における内容・表現について，造形表現に用いる様々な材料の特性や適切な用具の使用方法を理解し，幼児・児童の指導に十分な実技能力を身につける。

授業の概要

様々な材料の特性を知り，実技能力を身につけるため，毎時制作活動と振り返りを行う。

授業計画

第１回：幼稚園教育要領における表現
第２回：材料に親しむ（１）自然の材料
第３回：材料に親しむ（２）紙など
第４回：材料に親しむ（３）身近な材料
第５回：描く表現（１）パスやクレヨン
第６回：描く表現（２）絵の具など
第７回：つくる表現（１）粘土など
第８回：つくる表現（２）厚紙・段ボールなど
第９回：つくる表現（３）木切れなど
第１０回：造形遊びの実践
第１１回：材料用具と表現（１）伝える絵など
第１２回：材料用具と表現（２）針金や木材など
第１３回：受講者それぞれのテーマ設定
第１４回：自由制作課題（１次　制作準備，制作）
第１５回：自由制作課題（２次　制作，発表・交流）
定期試験　※　期末に材料用具の基本的知識に関する簡単な試験を行う

テキスト

『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月告示　文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に提示する

学生に対する評価

各自の取組と振り返りシート：４０％　自由制作課題：４０％　試験：２０％

授業科目名： 幼児と音楽表現	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：和田宏一 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		

授業のテーマ及び到達目標

・領域「表現」のねらい及び内容について理解し、表現活動を行う上で保育者に求められる音楽的能力を習得する。

・読譜の方法など、基本的な音楽理論について理解する。

・歌唱、弾き歌い、器楽合奏、音楽あそび等、保育者に求められる演奏技術を習得する。

・音楽表現活動における情報機器及び教材の活用法について応用できる。

・学修内容を総合的に応用させた音楽表現活動を実施する。

授業の概要

・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、保育者に求められる音楽表現技術の習得及び向上を目的として、音楽理論、子どものうたの歌唱、弾き歌いを中心に保育の現場で行われる音楽表現活動について幅広く学修する。

・情報機器の活用の観点から、弾き歌いの演奏発表を録画及び動画の視聴にて行う。

・グループによる創作発表を実施することで、音楽表現活動についての総合的な応用力の育成を目指す。

授業計画

第１回：保育者に求められる音楽表現技術とは

領域「表現」ねらい及び内容／保育者に求められる音楽表現技術／音楽理論(五線と音の高さ)

第２回：音楽表現技術の基礎①

音楽理論（音名と変化記号）／声の出るしくみ／生活のうた／季節のうた（春）

第３回：音楽表現技術の基礎②

音楽理論（拍子と小節・音符と休符）／自然で楽に歌うための発声法／季節のうた（夏）

第４回：音楽表現技術の基礎③

音楽理論（記号と楽語）／歌う際の姿勢／季節のうた（秋）／音楽あそび

第５回：音楽表現技術の基礎④

音楽理論（全音と半音・長音階）／歌う際の呼吸法／季節のうた（冬）／音楽あそび

第６回：音楽表現技術の基礎⑤

音楽理論（短音階）／口の開け方と歌詞の発音／動物のうた／わらべうた

第７回：音楽表現技術の基礎⑥

音楽理論（コードネーム）／動物のうた／子どもの発達と声域／手あそび

第８回：音楽表現技術の基礎⑦

音楽理論確認テスト／歌唱の演奏発表 第９回：和音伴奏付け コードネームを用いた和音伴奏付けの方法／食べ物・乗り物のうた／器楽合奏 第１０回：弾き歌いの基礎① 和音伴奏付けによる弾き歌い／人・音楽に関するうた／器楽合奏 第１１回：弾き歌いの基礎② 和音伴奏付けによる弾き歌い／弾き歌い時の発声に関する留意点 第１２回：弾き歌いの基礎③　和音伴奏付けによる弾き歌い／分散和音を用いた伴奏付け／ グループによる創作発表について 第１３回：弾き歌いの発表及び創作発表に向けて①　弾き歌いの発表（動画の視聴）／ 創作発表の方法（音楽劇、ペープサート、踊り、紙芝居等） 第１４回：創作発表に向けて② グループによる創作発表の準備 第１５回：創作発表及びまとめ グループによる創作発表及び意見交換／幼児と音楽表現まとめ
テキスト 『実践 楽譜が読める！大人のための音楽ワークテキスト』（ヤマハ・ミュージックエンタテインメント） 小林美実 編『こどものうた200』（チャイルド本社） 駒久美子・味府美香 編著『コンパス 音楽表現』（建帛社）
参考書・参考資料等 小林美実 編『続こどものうた200』（チャイルド本社） 無藤隆 監修／浜口順子 編集代表『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』（萌文書林） 杉本明・川口潤子・三ツ本晴彦・土橋久美子 著『先生になろう！音楽編』（スタイルノート）
学生に対する評価 各回の課題および小レポート（３０％）、音楽理論確認テスト（２０％）、弾き歌いの演奏発表（２０％）、グループによる創作発表（２０％）、授業への参加意欲（１０％）

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：松本直子 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１.保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。

２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。

３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。

授業の概要

保育所において「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解 を達成するために、子どもの具体例をみながら領域別の（健康・人間関係・環境・言葉・表現）教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養う。

授業計画

第１回：教育・保育の基本と保育内容の理解

第２回：養護及び教育の一体的に展開する保育

第３回：5領域と保育内容（3歳児未満児の保育内容）

第４回：5領域と保育内容（3歳児以上の保育における内容）

第５回：環境を通して行う保育（視聴覚教材）

第６回：生活や遊びを通して行う保育（視聴覚教材）

第７回：保育内容を実践するための保育の計画と評価

第８回：長期・短期の指導計画とカリキュラムマネジメント

第９回：0.1.2歳の保育内容（模擬保育）

第１０回：3.4.5歳児の保育内容（模擬保育）

第１１回：小学校や地域との連携

第１２回：子育て支援と保育内容

第１３回：特別な配慮を要する子どもの保育

第１４回：保育内容の歴史的変遷

第１５回：多文化共生の保育

定期試験　実施しない

テキスト 小川 圭子、日坂 歩都恵、小林 みどり『保育実践につなぐ 保育内容総論』株式会社みらい（令和3年）
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月告示　文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示　内閣府） 『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 2 月告示　厚生労働省）
学生に対する評価 ・平常点 20%（受講態度、授業内レポート） ・課題発表 80%（模擬保育、指導計画、レポート、作品等） 具体的な方法・基準等については、授業内で担当者より説明する。

授業科目名： 健康領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 金子勝司、栗田昇平 担当形態：オムニバス

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・領域「健康」のねらいとその内容について的確に把握する。
・幼児の健康を育む活動の実際を通して、発達段階に合った活動の実際について理解する。
・保育者にとって、日常の生活の中で幼児の健康に留意することを理解するとともに、幼児自身が自らの健康に留意できるような援助者、指導者としての基礎的姿勢と技術を身に付ける。

授業の概要

・乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
・領域「健康」の特性をもとに情報機器及び教材を活かし具体的な指導方法を身に付ける。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業概要説明、健康領域の指導について）（担当：栗田）
第２回：幼稚園教育要領、保育所保育指針における「健康」について（担当：栗田）
第３回：健康指導、安全指導の実際（担当：栗田）
第４回：健康指導、安全指導の計画と立案（担当：栗田）
第５回：健康指導の実際（生活習慣に関する指導）①（担当：栗田）
第６回：健康指導の実際（手洗い・排泄・食事に関する指導）②（担当：栗田）
第７回：個人の発育・発達のとらえ方及び発育発達の測定と評価（担当：栗田）
第８回：運動遊びの実際と指導１（教材の作成）（担当：金子）
第９回：運動遊びの実際と指導２（情報機器及び教材の活用）（担当：金子）
第１０回：運動あそびの実際と指導３（伝承遊び他）（担当：金子）
第１１回：幼児の健康を育む指導計画案について（担当：金子）
第１２回：幼児の健康を育む指導計画案の作成の実際（担当：金子）
第１３回：運動遊びの指導（室内遊びの模擬授業）①（担当：金子）
第１４回：運動遊びの指導（屋外遊びの模擬授業）②（担当：金子）
第１５回：まとめ　今日的課題と小学校体育科に向けて（担当：金子）
定期試験

テキスト

倉持清美　編者代表『新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉健康』萌文書林（平成30年）

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（平成30年）
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館（平成30年）

学生に対する評価

授業内で実施する理解確認課題（40％）、試験（60％）により評価する

授業科目名： 人間関係領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：今堀美樹 担当形態：単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

(1)幼児の発達に影響を与える現代社会の様々な要因について、理解を深める。

(2)幼児が、多様な人間関係においてどのような課題に出会うのかを考える。

(3)幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導間面を想定して保育を構想する方法を身につける。

授業の概要

人格形成の基礎を培う幼稚園教育において、幼児の発達に影響を与える現代社会の様々な要因を理解し、幼児を親子関係や家族関係、地域社会との関係から理解しようとする「視点」が重要であることを理解する。その上で、幼児が生活を楽しみ自分の力で行動しようとする過程で身近な人と親しみ、関りを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい愛情や信頼感が育まれていくことへの理解を深める。さらに、幼児の発達や学びの過程で出会う課題について理解を深め、具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

授業計画

第１回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」と幼児の発達に影響を与える現代社会の課題

第２回：幼稚園教育要領「人間関係」の「ねらい」―幼児の発達に必要な人間関係とは

第３回：幼稚園教育要領「人間関係」の「内容」―幼稚園生活で出会う人間関係上の課題とは

第４回：0歳児の発達と人間関係―探索活動、愛着と人見知り、言葉の芽生え、離乳の開始

第５回：1～2歳児の発達と人間関係―行動範囲の拡大と安全基地、象徴機能と言葉の習得、自己主張

第６回：3～5歳児の発達と人間関係―基本的生活習慣の形成、友達との関係、自己主張と他者受容、集団生活における自主と協調と協同、共同物への態度、道徳性の芽生え、地域社会への関心

第７回：事例を通して学ぶ指導上の留意点と評価の考え方（1）―生活のなかで育つ人と関わる力

第８回：事例を通して学ぶ指導上の留意点と評価の考え方（2）―遊びのなかで育つ人と関わる力

第９回：事例を通して学ぶ指導上の留意点と評価の考え方（3）―友達との個別関係

第１０回：事例を通して学ぶ指導上の留意点と評価の考え方（4）―仲間集団との関係

第１１回：模擬保育（1）―絵本・紙芝居・情報機器を用いた指導案の作成及びディスカッション

第１２回：模擬保育（2）―絵本・紙芝居・情報機器を用いた模擬授業の実施及び振り返り

第１３回：模擬保育（3）―構成的エンカウンターグループを用いた指導案作成及びディスカッション

第１４回：模擬保育（4）―構成的エンカウンターグループを用いた模擬授業実施及び振り返り

第１５回：小学校以降の生活や学習で生かされる力、領域「人間関係」をめぐる保育実践の動向と課題

定期試験

テキスト

『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月告示　文部科学省）

参考書・参考資料等

『保育所保育指針解説書』（平成30年2月告示　厚生労働省）

授業で配布するレジュメ

学生に対する評価

各回の演習シート：30%、発表：30%、試験40%

授業科目名： 環境領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：松本直子 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

① 保育内容の環境が、それぞれの領域に関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得できる。

② 保育内容の環境の領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解できる。

③ 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解できる。

授業の概要

実践現場で使える自然体験活動の直接体験演習を行う。実際の現場のエピソードを映像などで観て、グループで話し合うことで保育現場においての実践力を養う。ICTを活用した双方向型授業で学びを深めていく。また、幼稚園・保育所の現場経験を活かし、充実した保育環境のあり方について保育実践事例を交えた環境のあり方の指導を行う。

授業計画

第１回：保育における領域「環境」とは－保育の基本と領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについて

第２回：子どもの発達と領域「環境」養護の視点－乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際

第３回：グループワーク：室内外の保育における人的環境と物的環境について
（情報機器を活用して保育実践の動画から理解する）

第４回：グループワーク：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園外での活動）

第５回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内での活動）

第６回：自然環境を取り入れた保育の実際（グループでの模擬保育）栽培についての模擬保育

第７回：模擬保育の評価と改善－実践の省察、改善（グループディスカッション）

第８回：思考力の芽生えを育む保育

第９回：様々な文化や伝統に親しむ保育（情報機器を活用して他国の保育動画から理解する）

第１０回：好奇心・探究心を豊かに育む保育・身近な自然や素材を取り入れた保育

第１１回：－身近な自然や素材を使用した遊具製作の指導計画立案（情報機器の活用）
（計画立案：グループワーク）

第１２回：身近な素材を使用した保育（模擬保育：グループワーク：作製物）

第１３回：興味や欲求に応じた保育（模擬保育：グループワーク：子どもとのと応答的対話）

第１４回：12・13回の模擬保育の評価と改善－実践の省察、改善（グループディスカッション）

第１５回：領域「環境」に関わる現代的課題と、小学校接続の必要性

定期試験

テキスト 小櫃智子・小山朝子『実践例から学びを深める保育内容・領域　環境指導法』わかば社
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月告示　文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示　内閣府） 『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 2 月告示　厚生労働省） その他適宜提示する。
学生に対する評価 平常点（受講態度、授業内レポート）：20% 提出物・レポート・発表等：80% 具体的な方法・基準等については、授業内で担当者より説明する。

授業科目名： 言葉領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：蛯谷みさ 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

乳幼児期のことばの獲得過程及び、「幼稚園教育要領」の領域「言葉」の内容を理解したうえで、子どもの豊かな言葉を育む援助や指導について実践できる。

授業の概要

児童文化財の活用に至る保育計画の作成や、実践への過程において、グループディスカッションやプレゼンテーションを随時取り入れる。

指導計画についての発表を行う。児童文化財については、作成後発表を行う。

授業計画

第１回：幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい・内容の理解
第２回：言葉の発達と環境（視聴覚教材）、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（言葉による伝え合い）と小学校国語教育との接続
第３回：保育者の指導・支援（0歳児から2歳児）（3歳児から6歳児）
第４回：言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援
第５回：言葉を育てる保育者の言葉と援助
第６回：言葉と児童文化財(視聴覚教材・情報機器の活用)
第７回：言葉を育てる　児童文化財①「言葉遊び」と指導計画
第８回：言葉を育てる　児童文化財②「絵本・紙芝居・電子イラスト芝居」教材研究と教材活用（情報機器の活用）
第９回：言葉を育てる　児童文化財③　読み聞かせの指導案作成
第１０回：言葉を育てる　児童文化財④「パネルシアター、エプロンシアター」教材研究と教材活用
第１１回：言葉を育てる　児童文化財⑤（ペープサート、人形劇、劇遊び）教材研究と教材活用
第１２回：言葉を育てる　指導計画と評価
第１３回：模擬保育①　児童文化財を活用した保育実践
第１４回：模擬保育②　言葉を育てる保育実践（振り返りと評価）
第１５回：言葉の指導についての総括と今後の課題

テキスト

『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』文部科学省　フレーベル館

参考書・参考資料等

適宜、授業において連絡する。

学生に対する評価

小テスト及びレポート50%、課題及び実演等評価50%で総合的に評価する。

授業科目名： 表現（造形）領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：佐藤賢司 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
幼稚園教育要領に示された表現領域のねらい及び内容および，発達の段階を踏まえた幼児の表現活動の特徴を理解し，幼児の造形表現活動の展開と指導のあり方を習得する

授業の概要
幼児の表現活動の発達過程や特徴を理解し，また受講者自身の「描く」「つくる」「造形遊び」などの表現活動体験と関連づけながら，学習を進める。

授業計画
第１回：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域
第２回：幼児の造形的発達
第３回：描く活動の実際と教材研究①　パス・クレヨンなど
第４回：描く活動の実際と教材研究②　絵の具など
第５回：つくる活動の実際と教材研究①　紙や身辺材料など
第６回：つくる活動の実際と教材研究②　粘土など
第７回：造形遊びの活動の実際と教材研究①　身近な材料で屋内の活動
第８回：造形遊びの活動の実際と教材研究②　自然の材料で屋外の活動
第９回：指導・保育実践　描く活動
第１０回：指導・保育実践　つくる活動
第１１回：指導・保育実践　造形遊びの活動
第１２回：年間指導計画の作成
第１３回：小学校図画工作科の内容
第１４回：多様な実践と情報機器の活用事例
第１５回：幼児の活動の見取りと評価

テキスト
なし

参考書・参考資料等
『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月告示　文部科学省）
『保育所保育指針解説書』（平成30年2月告示　厚生労働省）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示　内閣府）

学生に対する評価
毎時の取り組み状況３０％　製作課題４０％　毎時の小レポート等３０％

授業科目名： 表現（音楽）領域指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：和田宏一 担当形態：単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・領域「表現」のねらい及び内容について理解し、具体的な指導場面を想定した音楽表現活動を構想する方法を身に付ける。

・音楽表現活動と、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性について理解する。

・音楽表現活動における指導内容、指導上の留意点、評価について理解する。

・子どもの特性と発達及び小学校への接続を考慮した指導計画を立案し、指導案を作成する。

・音楽表現活動における情報機器及び教材の活用法について理解する。

授業の概要

・保育における音楽表現の目的について、領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を踏まえ、学修する。

・身体、声、言葉、楽器、情報機器など「音」に関する多様な表現手段を用い、豊かな感性および表現力を養うことができる音楽表現活動の内容及び指導法について、実践を交え学修する。

・学修内容について理解を深めること及び実践力の育成を目的として、指導案の作成および模擬保育のグループ発表を行う。

授業計画

第１回：領域「表現」と音楽表現①
　　子どもの表現活動／領域「表現」のねらい及び内容／領域「表現」における音楽表現の扱い

第２回：領域「表現」と音楽表現②
　　子どもの発達と音楽表現／他領域との関連／小学校教育への接続／音楽教育メソッド

第３回：身体を用いた音楽表現
　　手拍子／手あそび／ボディ・パーカッション／身体表現を伴う音楽あそび／手話ソング

第４回：言葉・声を用いた音楽表現
　　表現手段としての声／言葉と音楽／子どもの歌概論

第５回：環境と音楽表現
　　子どもと環境音／身近にある音を感じよう／ワークで集めた音を用いてオノマトペ作り

第６回：造形と音楽表現
　　絵本と音楽／絵かき歌／絵やパネルシアター等を用いた歌唱指導

第７回：身近な素材を用いた音楽表現
　　自然素材と音楽表現／手作り楽器の制作および合奏

第８回：楽器を用いた音楽表現
保育の現場で用いる楽器／器楽合奏／楽器を使った音楽表現の指導
第９回：音楽表現を取り入れた指導計画と指導案①
指導計画を立てる際の留意点／教材研究について／導入について／指導案の書き方／評価の方法
第１０回：音楽表現を取り入れた指導計画と指導案②
部分指導案の作成
第１１回：情報機器及び教材の活用
表現活動におけるICTとは／ICTを活用した音楽表現活動／ICTを活用した学修記録
第１２回：行事と音楽表現　年中行事に見る音楽表現／発表会における音楽表現／音楽劇とオペレッタ／行事におけるICTの活用
第１３回：音楽表現を取り入れた模擬指導①
模擬指導案の作成／模擬指導の発表に向けての準備
第１４回：音楽表現を取り入れた模擬指導②
模擬指導の発表／映像ポートフォリオの作成
第１５回：音楽表現を取り入れた模擬指導③及びまとめ
映像ポートフォリオ鑑賞／模擬指導について振り返り／音楽表現の指導法まとめ
定期試験は実施しない

テキスト
『コンパス 音楽表現』駒久美子・味府美香 編著（建帛社）
『表現指導法』上野奈初美 編著（萌文書林）

参考書・参考資料等
『幼稚園教育要領』（平成29年告示　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成29年告示　厚生労働省）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
『音楽表現』谷田貝公昭 監修／渡辺厚美・岡崎裕美 編著（一藝社）
『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』無藤隆 監修／浜口順子 編集代表（萌文書林）
『先生になろう！音楽編』杉本明・川口潤子・三ツ本晴彦・土橋久美子 著（スタイルノート）

学生に対する評価
毎回の授業にて作成する課題および小レポート（４０％）
模擬指導の発表（２０％）
部分実習指導案の作成（１５％）
期末レポート（１５％）
授業への参加意欲（１０％）

授業科目名： 学校インターンシップ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：八木秀文 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

教育実践に向き合う自分なりの理念と方法を論じることができる。

授業の概要

この授業は、教育実習前に教員の実務全般を経験するための学校インターンシップ活動(2年次)に焦点を当てたものであるが、単に学校現場における礼儀や態度といった表面上の所作の獲得にとどまらない。極めてリアルな教育実践場面に直面する自分自身の姿を想定しながら、「どういう覚悟の下にどういう言動を選び取るべきか」という判断を巡って互いに議論し合い、各自の教育理念を描き出していこうとするものである。

授業計画

第１回：プロローグ―みんなで跳んだ―
第２回：矢部ちゃんのいる2年1組
第３回：“ともに生きる”ことを学ぶ
第４回：エイズ問題を学ぶ
第５回：運動会で優勝を目指す
第６回：ゆれ動くみんなの心
第７回：みんなで跳んだ
第８回：最高のビリ　最高の2年1組
第９回：大切なのは「呼ばれ方」なのか？
第１０回：授業妨害する子に出会ったら
第１１回：キミならどうする？ 教室を抜け出す子がいたら
第１２回：子どもの心(ホンネ)に触れる―中学校編―
第１３回：子どもの心(ホンネ)に触れる―小学校編―
第１４回：学校インターンシップ（初等／中等／特別支援）ガイダンス
第１５回：先輩たちの体験談に学ぶ

テキスト

教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する

参考書・参考資料等

「みんなで跳んだ」編集委員会編『バリアフリーブック みんなで跳んだ〔城北中学2年1組の記録〕』小学館、2001年。

学生に対する評価

小集団での意見交換や発表をふまえて記述する「学びの足跡」としての「ポートフォリオ」(70%）と、最終回に取り組む「総括ポートフォリオ」（30%）による「ポートフォリオ評価」を行う。

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：髙宮正貴 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

・授業のテーマ

道徳とは何かを理解するとともに、「特別の教科　道徳」及び学校の教育活動全体で行う道徳教育の意義、指導計画、指導方法を理解する。

・到達目標

①道徳教育の３つの理論（価値の明確化、認知発達的アプローチ、人格教育）を説明できる。

②明治時代以降の道徳教育の歴史を説明できる。

③道徳教育に関する学習指導要領の目標と内容を説明できる。

④道徳科の評価について、どのような視点で評価すべきか、すべきでないかを説明できる。

⑤道徳科の授業展開を説明できる。

⑥道徳科の発問を作ることができる。

⑦道徳科の学習指導案を作成でき、授業を行うことができる。

授業の概要

学校における道徳教育の意義を理解するため、道徳教育の理論と歴史を理解する。

また、道徳教育の実践的指導力を養うため、学校における道徳教育と道徳科の目標と内容を理解するとともに、道徳科の指導方法（教材の読み方、発問づくり等）を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション、道徳教育の３つの理論①（価値の明確化）

第２回：道徳教育の３つの理論②（認知発達的アプローチ、人格教育）

第３回：日本における道徳教育の歴史①（明治）

第４回：日本における道徳教育の歴史②（大正、昭和）

第５回：示範受業

第６回：学習指導要領①（学校の教育活動全体で行う道徳教育）

第７回：学習指導要領②（道徳科の目標、内容）

第８回：学習指導要領③（道徳科の評価）

第９回：道徳科の指導法①　教材の読み方

（A：道徳的価値の意味、根拠・理由、効用を読む、B：複数の価値観の重みの違いを読む、C：人間理解の視点で読む）

第１０回：道徳科の指導法②　発問づくりの方法：基本編

（A：教材の活用類型、B：発問の立ち位置・４区分、C：中心的な発問を作るための視点）

第１１回：道徳科の指導法③　発問づくりの方法：応用編

（A：追発問を作るための視点、B：自我関与を促す発問づくりの方法）

第１２回：道徳科の指導法④　ねらいの作り方（理想主義と現実主義）、道徳授業の展開過程 （道徳科の学習活動との対応、テーマ発問、「問題追求的な学習」の展開過程） 第１３回：道徳科の学習指導案の作成（教材①（人類愛）） 第１４回：模擬授業①（人類愛）、道徳科の学習指導案の作成（教材②（よりよく生きる喜び）） 第１５回：模擬授業②（よりよく生きる喜び）、振り返り 定期試験
テキスト ①髙宮正貴『価値観を広げる道徳授業づくり：教材の価値分析で発問力を高める』北大路書房、2020年。2,750円。 ②『道徳教育の指導法』オリジナルテキスト。
参考書・参考資料等 ①『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（平成29年6月告示　文部科学省） ②『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（平成29年7月告示　文部科学省）
学生に対する評価 学習指導案×２回（20%）、期末試験（80%） ※Google Classroomの課題（１回未提出毎に１点減点）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：林　直子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		

授業のテーマ及び到達目標
日本国憲法の基礎的知識を習得し、さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようなることを目標とします。

授業の概要
憲法に関する学習を通して、様々な考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養い、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけます。
授業では、できるだけ身近な素材を利用して日本国憲法を学びますので、「憲法」と日常生活とのかかわりについて考える機会にもなります。憲法改正の議論が活発化する今、日本国憲法の基礎知識をしっかりと習得しましょう。

授業計画
第１回：はじめにー現代日本の法制度の概要
第２回：憲法とは何かー近代憲法の特徴、憲法の歴史（西洋・日本）
第３回：日本国憲法の基本原理
第４回：統治のしくみ１―国会、裁判所
第５回：統治のしくみ２―違憲審査、裁判員制度
第６回：人権総論―憲法で保障される人権とは？
第７回：自由権１―信教の自由
第８回：自由権２―表現の自由など
第９回：自由権３―刑事手続き上の権利
第１０回：社会権―社会権の歴史、生存権、教育権など
第１１回：平等権―平等をめぐる歴史、平等権に関する重要判例（家族問題をめぐる判例など）
第１２回：参政権－投票価値の平等など
第１３回：新しい人権－プライバシー権、自己決定権など
第１４回：平和主義、憲法改正―憲法改正の手続き、国民投票
第１５回：全体のまとめ

テキスト
駒村圭吾編『プレステップ憲法（最新版）』（弘文堂）

参考書・参考資料等
芦部信喜著『憲法（第７版）』（岩波書店）
『別冊ジュリスト憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』（有斐閣）
その他の参考文献については授業の中で紹介します。

学生に対する評価
期末試験（筆記試験）７５％
授業課題（授業内容に関する小テスト・中間テスト）２５％により総合的に評価

授業科目名： 基礎体育Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：栗田　昇平 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		

授業のテーマ及び到達目標
運動・スポーツの多様性、運動・スポーツの効果と安全についての理解及び体力の構成要素、体力の高め方についての理解を深めることができるようになる。
「体つくり運動（集団行動を含む）」、「陸上運動・競技」、「器械運動」の実技を通して、各運動の知識や技能を習得できるようになる。

授業の概要
運動・スポーツの多様性、運動・スポーツの効果と安全についての理解及び体力の構成要素、体力の高め方についての理解を深めるとともに、学校体育において取り上げられる運動を経験することによって、各運動の知識や技能の習得を目指す。具体的には「体つくり運動（集団行動を含む）」、「陸上運動・競技」、「器械運動」などを中心とした実技を通して実施する各運動の知識や技能を習得できるようにする。

授業計画
第１回：基礎体育Ⅰの授業内容と進め方について
第２回：運動・スポーツの必要性と運動・スポーツへの多様な関わり方について
第３回：運動・スポーツの学び方と運動・スポーツの効果について
第４回：安全な運動やスポーツの行い方について
第５回：体力の構成要素と体力の高め方について
第６回：具体的な実践（実技）：①体つくり運動（集団行動及びラジオ体操第１）
第７回：具体的な実践（実技）：②体つくり運動（体育の準備運動・体ほぐしの運動）
第８回：具体的な実践（実技）：③体つくり運動（多様な動きをつくる運動）
第９回：具体的な実践（実技）：④体つくり運動（体の動きを高める運動）
第１０回：具体的な実践（実技）：⑤陸上運動・競技（走の運動）
第１１回：具体的な実践（実技）：⑥陸上運動・競技（跳の運動）
第１２回：具体的な実践（実技）：⑦陸上運動・競技（投の運動）
第１３回：具体的な実践（実技）：⑧器械運動（マット運動）
第１４回：具体的な実践（実技）：⑨器械運動（跳び箱運動）
第１５回：授業を通してのまとめ
定期試験

テキスト
随時資料を配布する。

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
平常点20%（授業へ取り組む態度）、授業内課題 20%、期末試験 60%

授業科目名： 基礎体育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：栗田　昇平 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		

授業のテーマ及び到達目標

運動・スポーツの文化的特徴（歴史、オリンピック）及びスポーツの技術と戦術ついての理解を深めることができるようになる。

「ボール運動・球技」、「表現運動・ダンス」などの実技を通して、実施する運動の知識や技能を習得できるようになる。

授業の概要

運動・スポーツの文化的特徴（歴史、オリンピック）及びスポーツの技術と戦術ついての理解を深めるとともに、学校体育において取り上げられる運動を経験することによって、各運動の知識や技能の習得を目指す。具体的には、「ボール運動・球技」、「表現運動・ダンス」などを中心とした実技を通して、実施する運動の知識や技能を習得できるようにする。

授業計画

第１回：基礎体育Ⅱの授業内容と進め方について

第２回：スポーツの歴史的発展について

第３回：オリンピックと国際理解、スポーツの経済的効果について

第４回：日本のスポーツ振興と総合型地域スポーツクラブについて

第５回：スポーツの技術についての理解と球技の型と戦術の特徴について

第６回：具体的な実践（実技）①ボール運動・球技
（ベースボール型ティーボールの行い方について）

第７回：具体的な実践（実技）② ボール運動・球技（ベースボール型ティーボールの実践）

第８回：具体的な実践（実技）③ボール運動・球技
（ゴール型タグラグビーの行い方について）

第９回：具体的な実践（実技）④ ボール運動・球技（ゴール型タグラグビーの実践）

第１０回：具体的な実践（実技）⑤ボール運動・球技
（ネット型プレルボールの行い方について）

第１１回：具体的な実践（実技）⑥ボール運動・球技（ネット型プレルボールの実践）

第１２回：具体的な実践（実技）⑦表現運動・ダンス

第１３回：具体的な実践（実技）⑧縄跳びを用いての体つくり運動の実践

第１４回：具体的な実践（実技）⑨Gボールを用いての体つくり運動の実践

第１５回：授業を通してのまとめ

定期試験

テキスト 随時資料を配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 平常点（授業へ取り組む態度）20%、授業内課題20%、期末試験60%

授業科目名： 英語Ⅱa	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：Paul Winterburn、 Jonathan MacNab 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

・海外での一般的な日常会話や日常生活に出てくる単語や表現の意味がおおよそわかるようになる。

・日常生活の場面においてネイティブスピーカーがゆっくり、明瞭に話せばその内容がおおよそわかるようになる。

・習った単語や表現を使って不完全でも自分の意思を伝えることができる。

授業の概要

テキストを使用し、これまでに学んできた単語や文法が会話の中でどのように使われるのかペアワーク、グループワーク、クラスでの活動を通した実践的な会話練習の中で学んでいきます。読む、聴く、書く、話すの4技能をコミュニケーションの観点から練習しながらブラッシュアップし、レベルアップにつなげます。

授業計画

第１回：コース紹介/説明、自己紹介アクティビティー、テキスト説明

第２回：Unit 1：Class Album 語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第３回：Unit 1：Class Album語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第４回：Unit 2：Favorite Photos語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第５回：Unit 2：Favorite Photos 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第６回：Unit 3：Personal Goals語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第７回：Unit 3：Personal Goals語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第８回：Review & Mid Term Test 前半総復習と中間復習テスト

第９回：Unit 4：Believe It or Not
語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１０回：Unit 4：Believe It or Not 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１１回：Unit 5：Where I Grew Up
語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１２回：Unit 5：Where I Grew Up語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１３回：Unit 6：Bargain Shhopper
語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１４回：Unit 6：Bargain Shhopper 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１５回：Review & End of Term Test 後半総復習と最終復習テスト

テキスト Active Skills for Communication Book 1(センゲージラーニング株式会社)(ISBN 978-1-4240-0908-4) 英和辞書（電子辞書または紙の辞書が必要、携帯電話の辞書としての使用は禁止します。） その他講師が配布するプリントを使用します。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ① クラスでの参加態度・発言・積極性　30% ② 小テスト結果　25% ③ Mid Term Test, End of Term Test結果　25% ④ その他（予習・復習状況、宿題状況、提出物状況など）20%

授業科目名： 英語Ⅱb	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：Paul Winterburn Jonathan MacNab 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

・海外での一般的な日常会話や日常生活に出てくる単語や表現の意味がおおよそわかるようになる。

・日常生活の場面においてネイティブスピーカーがゆっくり、明瞭に話せばその内容がおおよそわかるようになる。

・習った単語や表現を使って不完全でも自分の意思を伝えることができる。

授業の概要

テキストを使用し、これまでに学んできた単語や文法が会話の中でどのように使われるのかペアワーク、グループワーク、クラスでの活動を通した実践的な会話練習の中で学んでいきます。読む、聴く、書く、話すの4技能をコミュニケーションの観点から練習しながらブラッシュアップし、レベルアップにつなげます。

授業計画

第１回：コース説明、テキスト前期部分復習、ウォームアップ演習

第２回：Unit 7：The Perfect Gift 語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第３回：Unit 7：The Perfect Gift語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第４回：Unit 8：Party Planner語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第５回：Unit 8：Party Planner 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第６回：Unit 9：Music Profiles語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第７回：Unit 9：Music Profiles語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第８回：Review & Mid Term Test 前半総復習と中間復習テスト

第９回：Unit 10：Style Makeover語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１０回：Unit 10：Style Makeover 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１１回：Unit 11：Honesty語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１２回：Unit 11：Honesty語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１３回：Unit 12：School Reform
語彙チェック、文法チェック、リスニング演習、会話演習

第１４回：Unit 12：School Reform 語彙小テスト、リスニング演習、会話演習

第１５回：Review & End of Term Test 後半総復習と最終復習テスト

テキスト Active Skills for Communication Book 1(センゲージラーニング株式会社)(ISBN 978-1-4240-0908-4) 英和辞書（電子辞書または紙の辞書が必要、携帯電話の辞書としての使用は禁止します。） その他講師が配布するプリントを使用します。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ① クラスでの参加態度・発言・積極性　30% ② 小テスト結果　25% ③ Mid Term Test, End of Term Test結果　25% ④ その他（予習・復習状況、宿題状況、提出物状況など）20%

授業科目名： 情報処理Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦　泰夫 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

・ワープロソフト（Word）を用いた標準的な文書作成でき、電子メールのマナーを身につけること。

・情報セキュリティに関する知識を身につけること。

・データ形式に関する知識を身につけること。

・検索エンジンを用いて情報収集、レポートを作成できるようになる。

授業の概要

情報化社会となりつつあり、情報が多様化し、その処理能力が問われるようになってきた。授業では、情報リテラシーを向上させることを目的に、①情報に係る法律と社会環境②電子メールを用いたコミュニケーション、電子メールのマナー③ワープロソフト（Word）を用いた標準的な文書の作成④プレゼンテーションの方法（PowerPointを用いた発表資料の作成）の基本、⑤データ形式およびデータ処理に関する基本、⑥検索エンジンを用いて情報収集とレポート作成などについて実際にパソコンを操作しながら、情報処理技術および関連知識を習得する。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業概要、注意事項などの説明）

第２回：ＩＤ・パスワードの扱いと不正アクセス禁止について

第３回：一般的な文書作成のマナー

第４回：罫線を含む一般的な文書作成マナー

第５回：略図入りのビジネス文書の作成

第６回：電子メールのマナー

第７回：ベクター・ビットマップイメージの違い

第８回：プレゼンテーション原稿の作成

第９回：圧縮と展開

第１０回：セキュリティに関する基礎知識

第１１回：テキスト形式とバイナリ形式

第１２回：検索エンジンを用いた情報収集

第１３回：検索エンジンを用いた情報収集とレポート作成

第１４回：総まとめ課題

第１５回：最終課題、解説、振り返り

テキスト 適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 各回の課題（50%）実技試験（50%）で評価する。 ただし実技試験（50点満点）の結果が25点を下回った場合は単位を認定しない。

授業科目名： 情報処理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦　泰夫 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

・表計算ソフト（Excel）を用いた表の作成、基本的なデータ処理が行えるようになる。

・表計算ソフト（Excel）の基本的な関数の取り扱いを理解し、基本的な統計処理（平均・標準偏差・偏差値・相関など）ができるようになる。

授業の概要

現代社会は、コンピュータの急速な進歩と普及に伴い、いわゆる情報化社会となりつつあり、教育分野でも情報が多様化し、また、さまざまな場面で、その処理能力が問われるようになってきた。本実習では、情報リテラシーを向上させることを目的に、①表計算ソフトを用いたデータ処理、②関数の取り扱いを理解し、基本的な統計処理できるよう、実際にパソコンを操作しながら、情報処理技術および関連知識を習得する。 単に関数を使うことを学ぶだけでなく、それらを組み合わせることで、より複雑なデータ処理ができることを目指す。

授業計画

第１回：ガイダンス、表計算の基礎概念と四則演算

第２回：罫線のある複雑な文書の作成

第３回：表計算ソフト（Excel）の概要と四則演算・型

第４回：相対・絶対アドレスの概念と実際の処理

第５回：基本的な関数とその応用

第６回：エラー処理・論理・制御構文・パターンマッチング

第７回：関数の利用（複雑条件IF等）

第８回：さまざまなグラフ

第９回：度数分布とヒストグラム

第１０回：平均と分散・標準偏差

第１１回：散布図と相関係数

第１２回：回帰分析

第１３回：統計処理の応用

第１４回：総まとめ課題

第１５回：最終課題、解説、振り返り

テキスト

堤裕之・畔津憲司・岡谷良二『教養としての数学』ナカニシヤ出版

その他 適宜プリントを配布する

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 各回の課題（50%）実技試験（50%）で評価する。 ただし実技試験（50点満点）の結果が25点を下回った場合は単位を認定しない。

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：髙宮正貴 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業のテーマ及び到達目標

・授業のテーマ

これからの教育を構想するにあたり、教育の理念や思想がもつ意義を理解する。

・到達目標

①人間の本質から教育の重要性を説明できる。

②生物の世代交代の観点から文化伝達としての教育の意義を説明できる。

③共同体社会と近代社会の教育目的の違いを説明できる。

④教育目的の類型を説明できる。

⑤近代学校の成立要因を説明できる。

⑥近代公教育の思想（コンドルセ、マン、J. S. ミル）を説明できる。

⑦古代ギリシアにおけるスパルタとアテナイの教育の違いを説明できる。

⑧ソフィストと哲学者（ソクラテス、プラトン、アリストテレス）の教育思想を説明できる。

⑨近代教育思想の変遷（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、デューイ）について説明できる。

⑩以上を踏まえて、これからの教育を構想できる。

授業の概要

本授業の目的は、これからの教育を構想するための基礎知識をもつことである。

具体的には、「教育とは何か」「学校とは何か」を原理的および歴史的に考察することを通して、今の教育や学校がどのようにして成立したのかを理解する。

授業計画

第１回：教育とは何か①（人間とは何か）～「生理的早産」は人間に何をもたらすか？～

第２回：子どもの発達と教育の目的①（共同体社会の教育目的）
～近代以前と近代以降の教育はどう違う？～

第３回：子どもの発達と教育の目的②（近代社会の教育目的、デュルケーム）
～教育は個人のため？社会のため？～

第４回：学校の歴史①（学校の始まり～近代学校の成立）
～なぜすべての子どもが学校に通うようになったの？～

第５回：学校の歴史②（コンドルセ）～公立学校はなぜ無償であるべきなの？～

第６回：学校の歴史③（ホーレス・マン、J.S.ミル）～教育のための課税をどうやって説得する？～

第７回：古代ギリシアの教育①（スパルタとアテナイ） 　　～なぜアテナイでは女子は教育を受けなかったの？～ 第８回：古代ギリシアの教育②（ソフィストとソクラテス）～なぜ一般教養を学ぶ必要があるの？～ 第９回：古代ギリシアの教育③（ソクラテス、プラトン、アリストテレス）～教育の目的とは？～ 第１０回：近代の教育思想①（コメニウス）～感覚の教育はなぜ大切なの？～ 第１１回：近代の教育思想②（ルソー）～「消極教育」はなぜ大切なの？～ 第１２回：近代教育学の確立①（ペスタロッチ）～道徳性を養うために大切なことは？～ 第１３回：近代教育学の確立②（フレーベル）～教具は何のためにある？～ 第１４回：近代教育学の確立③（ヘルバルト）～知育と徳育は一緒に行うべき？～ 第１５回：新教育運動の展開（デューイ）～「経験主義」と「系統主義」のどちらが優れている？～ 定期試験
テキスト ①『教育原理』オリジナルテキスト。 ②島田和幸・髙宮正貴編『教職エクササイズ　教育原理』ミネルヴァ書房、2018年10月。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業時の課題（10%）、期末試験(90%)。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：吉美　学 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
教員の仕事の特質や教職に関わる制度を理解するとともに、教職に関わる改革の特質と課題を理解する。あわせて、教員に求められる資質・能力についても理解をする。また、教職の意義・役割・重要性、教員の職務内容・学校体制・服務、学習理論・指導法、進路選択等、教員を目指すものにとって必要な知識と見識を習得するとともに、教職への意欲を高める。

授業の概要
教職を志す者に、将来、自分自身の教員としての教育実践を支える教職論を構築する際に不可欠な基礎知識や思考枠組を獲得することをねらいとし、具体的には、「教師・教職とはどのようなものか」ということについて学び、考察させるため、教職の意義や教員の役割、資質・能力、職務内容・学校体制、学習指導等に関する知識及び、自らの進路を選択することの可否を適切に判断する材料となること等について、法規法令を含め多面的な指導を行う。

授業計画
第１回：教職の意義　－教職の意義とすばらしさ－
第２回：教職観と理想の教師像　－古典的・近代的教職観、様々な教師論－
第３回：教職とは何か①　－職業人・社会人とは何か、教職の概念・意味－
第４回：教職とは何か②　－教員の役割と職務内容－
第５回：教師に求められる資質能力①　－共通して求められる資質能力（学校段階別の資質能力）－
第６回：教師に求められる資質能力②　－自己教育と他者教育－
第７回：教師に求められる資質能力③　－教育実践の事例紹介と新しい教育理論－
第８回：教師の任用・服務と身分・待遇
第９回：教師の役割と仕事①　－学習指導要領の狙いと理念、教育課程の編成、教育評価－
第１０回：教師の役割と仕事②　－学習指導（形式陶冶と実質陶冶）、学習評価－
第１１回：教師の役割と仕事③　－学級経営、生徒指導、進路指導、特別活動、総合的な学習－
第１２回：教師の役割と仕事④　－校務分掌（チーム学校）、家庭・地域及び専門家等との連携等－
第１３回：学習理論と指導法概論　（わかる授業・力のつく授業）　－教科研修、教材研究、指導法－
第１４回：教師の力量形成と研修　－研修の形態と意義、教特法と研修、免許更新制度ほか－
第１５回：教職への進路選択と教員採用
定期試験

テキスト
毎時間、授業で資料を配布する。

参考書・参考資料等
・教職論［第2版］教員を志すすべてのひとへ　（教職問題研究会　ミネルヴァ書房 2010）
・小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
・中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示　文部科学省）
・教育時事答申（文部科学省）
・図解・表解教育法規新訂第3版　坂田仰他　教育開発研究所2017

学生に対する評価
定期試験（60％）、課題文、小テスト（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸田　正幸 担当形態：　単　独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校 安全への対応を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

公教育制度にかかるしくみ法的･制度的仕組みやその役割などといった基本的な内容について理解するとともに、公教育を担う学校に求められている地域との連携及び学校安全についての理解を深める。

授業の概要

講義形式を基本としながら、課題についてのグループ協議や発表等の形態を取り入れることのより、教育をめぐる諸課題や学校の役割について理解を深める。

授業計画

第１回：公教育制度の意義と構造
第２回：公教育制度と教育法令
第３回：中央教育行政の理念と仕組み
第４回：教育委員会制度の理念と仕組み
第５回：教育委員会制度と学校経営
第６回：学校を取り巻く社会の変化
第７回：教育をめぐる諸課題①（最近の教育政策・制度改革の動向）
第８回：教育をめぐる諸課題②（教育委員会における取組の実際）
第９回：教育をめぐる諸課題③（学校が抱える課題と取組の実際）
第１０回：地域における学校の役割①（開かれた学校づくりとその意義）
第１１回：地域における学校の役割②（学校外の関係者等との連携）
第１２回：地域における学校の役割③（コミュニティスクールと地域との連携）
第１３回：学校保健安全法と学校の危機管理
第１４回：学校安全の必要性（学校での事件・事故の実際とその対応）
第１５回：安全教育の実際（優れた実践事例研究）
定期試験

テキスト

各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。

参考書・参考資料等

「新しい教育行政学」川野和清編著　ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎時間提出を求めるミニレポート（40%）と定期試験の結果（60%）により評価する

授業科目名： 学校教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：土田幸男 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

授業のテーマ及び到達目標

・教育心理学の基本的な事項について理解し，説明することができる。

・教育心理学の理論と教育実践を関連づけ，実際にそれをどう使えばよいかについて考えることができる。

授業の概要

心理学は人間のこころに対する科学的学問である。心理学の応用領域の1つとして教育心理学がある。この授業では，教育に応用できる様々な心理学の知見を概観する。教育場面の心理学的な理解を深めると共に，教育現場で「実際に使える」ような心理学的知識を提供することを目指す。

授業計画

第１回：教育心理学とは

第２回：学習と記憶（行動心理学・認知心理学による学習と記憶の基礎理論）

第３回：動機づけ（幼児、児童生徒の動機づけ）

第４回：知能・創造性と学力（学力と教授法および知能理論）

第５回：児童・生徒理解とパーソナリティ（パーソナリティの基礎理論と測定法）

第６回：測定と評価（測定の基礎理論と教育評価）

第７回：発達の原理（遺伝と環境、ピアジェによる発達理論）

第８回：発達段階の特徴（運動・言語・認知・社会性の発達）

第９回：学級集団の理解（学級集団の構造、社会的勢力、子どもの資源）

第１０回：授業の心理（学級経営、教師の姿勢）

第１１回：学校不適応行動の理解（いじめ・不登校）

第１２回：発達障害と心理学的支援（ASD・ADHD・LD）

第１３回：心の病気とカウンセリング（精神疾患の理解とカウンセリングの基礎）

第１４回：教育心理学の展望（近年の教育心理学テーマの提示と考察）

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

富永大介他編『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

平常点（毎回の確認テスト）20%，定期試験80%で評価する。

授業科目名： 特別ニーズ教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：藤井茂樹 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

①特別な支援を必要とする幼児、児童生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。

②特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の教育課程や支援の方法を理解する。

③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する

授業の概要

幼稚園、小中学校、高等学校の通常の学級にも在籍している発達障害や、軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が、学習活動に参加し、生きる力を身につけていくことができるように、幼児・児童・生徒の学習上又は行動上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して対応していくための必要な知識や支援方法を事例を通して学ぶ。

授業計画

第１回：特別支援教育とは　特別支援教育の理念と展開

第２回：特別支援教育の推進①　　就学先決定　個別の教育支援計画・個別の指導計画

第３回：特別支援教育の推進②　特別支援学校のセンター的機能・自立活動

第４回：就学までの仕組みとその実際　早期発見・早期支援

第５回：幼稚園・小学校・中学校・高等学校における特別支援教育

第６回：幼稚園・小中学校・高等学校　通常の学級における支援　授業によるユニバーサルデザイン

第７回：特別支援学級、通級による指導

第８回：特別支援学校の教育　知的障害

第９回：特別支援教育の実際①　　視覚障害　　聴覚障害

第１０回：特別支援教育の実際②　肢体不自由　病弱・身体虚弱

第１１回：特別支援教育の実際③　情緒障害　　言語障害

第１２回：発達障害の理解と指導①　学習障害

第１３回：発達障害の理解と指導②　　注意欠陥多動性障害

第１４回：発達障害の理解と指導③　　自閉スペクトラム症　不登校

第１５回：日本語指導が必要な幼児・児童・生徒　貧困　虐待

定期試験

テキスト

・特別支援教育のテキストー「気付き、工夫して、つなげる」教員と教員になりたい人のために
（小林倫代・藤井茂樹・廣瀬由美子・星祐子著　学研）

参考書・参考資料等 ・特別支援教育の基礎・基本（国立特別支援教育総合研究所　著作）
学生に対する評価 試験50％、平常点（受講態度等）30％、提出物10％、小テスト10％

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：八木秀文 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（１）　カリキュラムの意義、編成主体、編成原理、編成方法を理解することができる。

（２）カリキュラム（教育課程）の史的変遷とその特質を理解することができる。

（３）カリキュラムの歴史的・社会的性格を理解することができる。

授業の概要

わが国において、カリキュラム（教育課程）は、学習指導要領や教科書などによって規定され固定化されたものとして捉えられがちである。確かにカリキュラムは一方で歴史的・社会的な要請に応えて編成される側面をもつが、他方では教師や地域の特性はもとより生徒自身の学びの状況にも応じながら、柔軟につくりかえられていく側面ももっている。本講では、そうしたカリキュラムの編成主体や編成原理、編成方法など基本的なことを論じた上で、わが国におけるカリキュラム（教育課程）の史的変遷とその背後にある学力問題や「知」の構造変化などの観点からカリキュラムを俯瞰的に問い返しながら、カリキュラムと授業実践、子どもや地域の実態との関係性をとらえ、カリキュラム・マネージャーとしての教師の役割を論じていく。

授業計画

第１回：カリキュラムとは何か

第２回：教育課程の哲学的思想的原理―認識論的基礎

第３回：教育課程の歴史的性格

第４回：心理的要請と社会的要請

第５回：社会的要請と心理的要請の関係性

第６回：文化的再生産論-社会的性格

第７回：制度化された学び

第８回：教育課程の政治的性格

第９回：工学的アプローチと羅生門的アプローチ

第１０回：能力主義・成果主義にどう向き合うか

第１１回：教育における「結果」や「平等」とは何か

第１２回：教科・領域を横断した教育課程編成の在り方

第１３回：長期的な視野からの教育課程編成の在り方

第１４回：カリキュラムはあなただ

第１５回：カリキュラム・マネジメントとは何か

テキスト 教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『小学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月告示　文部科学省） 『中学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月告示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説―総則編』（平成21年11月　文部科学省） 『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示　文部科学省） 安彦忠彦『教育課程編成論―学校は何を学ぶところか』
学生に対する評価 小集団での意見交換や発表をふまえて記述する文章「学びの足跡」としての「ポートフォリオ」（70%）と、最終回に取り組む「総括ポートフォリオ」（30%）による「ポートフォリオ評価」を行う。

授業科目名： 教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：八木秀文 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

(1)教育改革で絶えず焦点となる学力形成や人間形成に関する論点を、社会構造および「知」の構造の変化を俯瞰的にとらえた上で論ずることができる。

(2) 社会構造および「知」の構造変化を認識した上で、教育改革の動向を踏まえつつ、これから求められる学力のとらえ方、教育実践のあり方について、自分なりの言葉で論ずることができる。

(3) これから求められる教育実践を、ICT活用によってどのように媒介したらよいのか、具体的な実践イメージをシミュレーションしながら、自分なりの言葉で論ずることができる。

授業の概要

まず、教育方法を論じる上で要となる学力や心の教育の問題、社会構造と「知」の構造の変化を検討する。検討する視点として、各人の単なる記憶や印象に頼るのではなく、「いま目の前の子どもに対して成り立つ教育とは？」「子どもの眼前にある“壁”に立ち向かう力を培う教育とは？」「子どもが未来を切り拓くための教育とは？」「子どもとともにこれからの社会を創っていく営みとしての教育とは？」といった、多角的・長期的な視点で論じていきたい。

こうした授業実践を具体化しようとするとき、「ICTをどう活用するべきなのか」「逆にデメリットがあるとしたら、どう向き合ったらよいのか」を検討していく。具体的なICT活用実践を考察しつつ、実際にICTを使った授業づくりをシミュレーションする体験なども織り交ぜながら検討していきたい。こうした議論を通して、「子どもが未来を切り拓くための教育」「子どもとともにこれからの社会を創っていく営みとしての教育」をICT活用によってどのように媒介するのか、具体的な実践イメージを描いていきたい。

そして最終的に、いま子どもにどのような学力を育むべきか、そのための教育方法はどうあるべきかといった大きな問いに対して、各自の考えを創り上げていきたい。

授業計画

第１回：「教える」とは何か

第２回：これからの社会に必要な「学び」を支える環境構成

第３回：「学び」を価値づけ、方向づける行為としての「評価」

第４回：「主体的・対話的で深い学び」とは何か

第５回： 子どもの特別なニーズに応える授業づくり―対話・黒板・ICT―

第６回：他者と出会い多様性に学ぶ対話的実践としての授業の在り方

第７回： ICT活用の意義と在り方（授業づくりと環境整備）

第８回： ICTを効果的に活用すると授業はどう変わるか

第９回： 教育データ活用による評価と情報セキュリティ

第１０回：オンライン教育システムの意義と活用法

第１１回： ICTを活用した校務の変革

第１２回：（情報モラルを含む）情報活用能力とは何か―どんな教科・領域で何を指導するか―

第１３回：（情報モラルを含む）情報活用能力を育む授業づくりの実際

第１４回：ICTの操作方法と情報活用能力を育む指導のステップを具体化する授業デザイン

第１５回：これからの時代の教育実践は学習指導案にどう表れるか

テキスト

なし（毎回の授業内容についての資料を配付する）

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省）
『小学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月告示　文部科学省）
『中学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月告示　文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説―総則編』（平成21年11月　文部科学省）
『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省）
『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省）
『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示　文部科学省）
深澤広明編『教師教育講座第9巻　教育方法技術論』協同出版、2014年。

学生に対する評価

小集団での意見交換や発表をふまえて記述する「学びの足跡」としての「ポートフォリオ」（70%）と、最終回に取り組む「総括ポートフォリオ」（30%）による「ポートフォリオ評価」を行う。

授業科目名： 幼児理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：松本直子 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

１．保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するうえでの基本的な考え方を理解する。

３．子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

４．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業の概要

人間の発達において重要な乳幼児期においての、年齢に応じた発達をテキスト等で学習する。そして、実際の保育現場の写真や動画を観て、様々な事例での保育者の適切な関わり方を考える機会を持つ。ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援を行い学びを深めていく。また、担当教員の幼稚園・保育所の現場経験を活かし、充実した人間関係のあり方について保育実践事例を交えた指導を行う。

授業計画

第１回：保育における子どもの理解の意義

第２回：子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開

第３回：子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり

第４回：子どもを理解する視点

第５回：子どもの生活や遊び・

第６回：子ども相互の関わりと関係づくり

第７回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達

第８回：保育の環境の理解と構成

第９回：子どもを理解する方法　１（観察　・記録　・省察・評価）

第１０回：子ども理解の方法２

（ラーニングストーリーを使って観察・記録・省察・グループワーク・評価）

第１１回：保護者との情報の共有

第１２回：子どもの理解に基づく発達援助

第１３回：発達の課題に応じた援助と関わり

第１４回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助

第１５回：発達の連続性と就学への支援

定期試験　実施する

テキスト 高嶋　景子、砂上　史子 編著『子ども理解と援助』ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等 その都度紹介する
学生に対する評価 平常点（２０％受講態度、授業内レポート)テスト・提出物・レポート・発表等（８０％） 具体的な方法・基準等については、授業内で担当者より説明する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：土田幸男 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標
将来教員となった際に最低限必要なカウンセリングマインドの知識を習得する。

授業の概要
教育相談は、臨床心理学を基礎とした幼稚園教師のカウンセリングマインドを養成する授業である。したがって、教師として最低限必要な心理カウンセリングの基礎を学んだ上で、幼稚園や各種学校でストレス、学業不振、家庭生活、いじめ、不登校、非行などの諸問題を教師として如何に対応していけばよいかということを臨床心理学の立場から学んでいく。授業の到達目標は将来教員となった際に最低限必要なカウンセリングマインドの知識と教育相談の方法を習得することを目指す。

授業計画
第１回：ガイダンス　教育相談とは
第２回：カウンセリングマインドの必要性
第３回：教育相談の進め方
第４回：悩みとその対応
第５回：障害を持つ生徒と学校
第６回：カウンセリングの基礎Ⅰ（心理カウンセリングとは）
第７回：カウンセリングの基礎Ⅱ（言語的技法）
第８回：カウンセリングの基礎Ⅲ（非言語的技法）
第９回：家庭と学校
第１０回：学校の現状と問題
第１１回：いじめ
第１２回：不登校
第１３回：非行と予防
第１４回：特別活動
第１５回：これまでの内容に基づいた総合問題の実践・解説
定期試験

テキスト
前林清和編『教師を目指す人のためのカウンセリング・マインド』　昭和堂

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
平常点（毎回の確認テスト）40%，定期試験60% で評価する。

授業科目名： 教職実践演習（幼稚園・初等・中等）（クラス分け・オムニバス）	単位数： ２単位	担当教員名： ・教職担当：岸田正幸、藤井茂樹、吉美学、高宮正貴 ・特別支援教育に関する担当：藤原彰子 ・教科担当：加藤良徳、岡崎 均、栗田昇平、中川一彦 浜上洋平、松本直子

科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○

受講者数　　１２５人
幼稚園コース及び小学校教育コースを２分割、保健体育教育コースを２分割し、４展開で実施。
１展開約８班編成（１班：３～４人）。

教員の連携・協力体制
教職実践演習については、学校現場で教職経験を有する教員が中心となり、教職担当、教科担当及び幼教担当、並びに教職支援センターが連携・協力し、運営を行っていく。また、教育委員会や学校と継続的に連絡を取り合うとともに、学校インターンシップや教育実習に関わる巡回指導の際に、意見交換や情報交換を行うことにより、学校現場等の意見収集を図り、授業に反映させていく。

授業の到達目標及びテーマ
① 使命感や責任感､教育的愛情等　② 社会性や人間関係能力等　③ 幼児児童生徒理解や学級経営等
④ 教科内容等の指導力（ICT活用指導力を含む）
これらに関する事項について、教員としての最小限必要な資質能力を身につけることを目標とする。

授業の概要
教育実習の経験を踏まえて、学校教育の課題を自ら見つけ、その課題の解決のための具体的な実践方法について考える。学習指導案、学級経営案等の作成、ICT活用指導力、教育課題についての講義や事例研究、役割演技（ロールプレイング）等を通して、学校教育現場において起こりうるさまざまな課題・問題に対する実践的指導力を育成する。また、教科内容に関わる授業においては、強化に関する科目担当教員が協力を行う。

授業計画　（幼初：幼稚園・初等教育…幼稚園コース・小学校教育コース担当、中：中等教育…保健体育教育コース担当）

第１回：履修履歴の確認と学生が見につけるべき内容の提示　（幼初藤井、中岸田）
第２回：教職項目①（幼児児童生徒理解に関わる事例研究、役割演技など）　（幼初松本、中岸田）
第３回：教職項目②（生徒指導と学級経営に関わる事例研究、役割演技など）　（幼初吉美、中岸田）
第４回：教職項目③（特別活動と学級経営に関わる事例研究、役割演技など）　（幼初吉美、中岸田）
第５回：教職項目④（保護者、地域との連携に関わる事例研究、役割演技など）　（幼初吉美、中岸田）
第６回：教職項目⑤（学校経営、運営（「チーム学校」を含む）、学級経営に関わる事例研究など）
（幼初吉美、中岸田）
第７回：特別支援教育に関する事例研究、役割演技等　（幼初中藤原）
第８回：教科内容等の指導Ⅰ（学習指導、ICT活用指導力・集団討論など）　（幼初松本、中川、中浜上）
第９回：教科内容等の指導Ⅱ（授業研究、指導計画の立案・集団討論など）　（幼初加藤、中川、中浜上）
第10回：教科内容等の指導Ⅲ（授業計画の練り上げ・集団討論など）　（幼初髙宮、中浜上）
第11回：模擬授業の実施と討議Ⅰ（ICT活用指導含む）（幼初８班、中８班）　（幼初岡崎、中浜上）
第12回：模擬授業の実施と討議Ⅱ（ICT活用指導含む）（幼初８班、中８班）　（幼初栗田、中髙宮）
第13回：教育委員会、学校長等の教員経験者による講義　（幼初藤井、中岸田）
第14回：教員の資質・能力に関する総まとめと発表Ⅰ（幼初８班、中８班）　（幼初松本、中岸田）
第15回：教員の資質・能力に関する総まとめと発表Ⅱ（幼初８班、中８班）　（幼初松本、中岸田）
定期試験は実施しない

テキスト
なし（必要に応じて資料プリントを配布）

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
自らの履修履歴を振り返り、自身の課題を把握し、自主的、積極的に授業に参加し、集団討論、ロールプレイング、模擬授業等により、教員として最小限必要な知識、技能、資質能力が身についているかを総合的に判断し、評価とする。